

# 若者が関に戻り、住み続けられるまちへ —小・中・高校生の郷土愛醸成—

## 岐阜県関市 特定非営利活動法人せき・まちづくりNPOぶつめらん

### 活動の背景

岐阜県関市は人口8万6672人のまち。2005年の9万2597人をピークに減少傾向にある。その原因の一端には、関市では高校を卒業すると約7割が市外に転出し、その後、社会動態でのマイナスが続いている。2016年に当団体が行った市内高校生約100人を対象としたアンケートでは、市内事業所5166社のうち、約9割の高校生が「知っている関の企業は1〜10社しか知らない」、また約6割が「進路選択には、親、先生、友人から影響を受けている」ことが明らかとなった。

当団体は、「若者が関に戻り、住み続けられるまち」を目指して2007年に設立した。

郷土愛を醸成する関再発見フリーマガジン『ぶつめらん』（2007年〜、隔月2万1000部発行、現在79号まで発行）、高校生自身が気になる職業やお店取材して記事を書く、高校生フリーマガジン『高校ぶつめらん』（2016年〜、年4回4000部発行、市内高校に配布、現在19号）などの地域メディアを発行している。また、関で働き、住み続けられるための仕組みづくりとして、企業の採用支援やCSV支援、市民活動の促進としての関市市民活動センターの受託・運営を行っている。

### 活動内容

当団体は、関市を出る前の子どもたちに向

けて、三つの視点で取り組みを実施してきた。一つ目が、関を好きになること。二つ目が、関の仕事を知り、将来関で働くことを選択肢に入れてもらうこと、そして三つ目が、親、先生以外の多様な大人が子どもたちの将来に影響を与えることである。近年、これらの取り組みが、多くの団体との連携により着実に身を結んできた。

#### ①フリーマガジン『ぶつめらん』×

関市PTA連合会による広報誌掲載

2017年6月、当団体と関市PTA連合会が連携協定を結び、関市PTA広報誌を当団体が編集して『ぶつめらん』に掲載し、その冊子を18の市内小中学校を通じて全員に配布することとなった。広報誌の内容としては、各小中学校の取り組み紹介や、はじめ、発達





当団体のミッションと事業の柱



関再発見フリーマガジン『ぶうめらん』は今年15年目

障害、不登校をテーマとした連載を掲載。発達障害の連載は好評で、連載を読んだ子ども自身が自分の症状を自覚し、先生への相談につながったケースが生まれた。また、発達障害の連載は岐阜県PTA連合会で再構成し、県下で配布された。

## ② 店主のお仕事を子どもが体験

子どもミュージアム商店街in本町通り商店街 2017年7月、中心市街地にある本町通り商店街にて、関市市民活動センター事業として、商店街のお仕事を子どもが体験する1日イベントを開催した。本事業は「関の小学生たちが、地元の商店街を知らない」ことを課題とし、仕事体験を通じて、店主との交流を深め、日常的に訪れやすい場となることを目指して実施した。和菓子作りや、着物の着付け、帽子屋さんの店員体験などを実施。1年目は11店舗、2年目からは関市商店街連盟が主体となり12店舗、3年目も12店舗で開催し、いずれも定員を超え、のべ300組の申し込みとなった。本事業により、これまで訪れたことなかったお茶屋さんへ、親子で訪れ直したという家族や、毎年の開催を楽しみにする子どもたちが増え、商店街と親子との接点が増えた。

また、3年目からは、仕事体験だけでなく、子ども自らが店主へ取材をし、記事をまとめる過程を加えたことで、体験から学んだことを自分の言葉でつづるキャリア育成事業としてステップアップしている。

## ③ 高校生が関市の仕事を体験する

### 「関ジモト大学」

2017年より、毎年8月に市内高校生が関の企業を体験するジモト大学を開催。関の



『高校ぶうめらん』の高校生編集スタッフ。現在約10名が在籍

## 事業の発展

伝統産業である刃物産業をはじめ、塗装会社、飲食店、運送会社など、1年目は9事業所、2年目13事業所、3年目は12事業所で実施し、高校生のべ185名が参加。本年度は、45事業所が参加し、関高校1・2年生約560名、関商工高校2年生約130名、関有知高校2名が全員参加するまでに定着した。

## ① 旭ヶ丘中学校子ども新聞

フリーマガジン『ぶうめらん』が小中学生



関ジャムト大学で、関牛乳の工場を見学する高校生



商店街ミュージアムの様子。呉服屋さんにて



「旭ヶ丘・富岡こども新聞」中学校の生徒が、仕事を取材する

へ配布されたことにより、多くの学校から総合的探究の時間によるキャリア教育についての相談を受けるようになった。昨年は関市立旭ヶ丘中学校1年生120名の1年間を通じた総合時間「夢探求」として、校区内の企業へ中学生が訪問し、取材、そしてグループごとで取材内容をまとめ、冊子制作・配布を行った。事前に取材や写真撮影のコツを当団体よりレクチャーし、取材先は校区内にある二つの地域自治組織の協力を得て依頼。制作した冊子は地域自治組織を通じて住民に配布された。

探究活動は事業所の依頼等、学校の先生の負担が大きい。それを当団体が地域自治組織と仲介することにより先生の負担を減らし、地域がより深く関わるお手伝いができている。

②親子おうちで社会貢献クвест

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年3月〜5月、小中学校の休校措置を受け、子どもたちの在宅時間が増えることとなった。一方地域も大きなダメージを受けており、在住外国人のマスク不足や、休校に伴う学校給食に提供していた魚・牛乳の廃棄の危機、防災啓発を行っている団体の講演中止に見舞われていた。そこで、関市PTA連合会と協働し、在宅時間に親子が取り組める社会貢献として、両者をつなぎ、マスクの制作や食品の家庭内調理、防災啓発の受講を行った。本事業はPTAを通じて広報され、60組の親子が参加。実施とともに、企業や団体の現在の活動の周知などを行い、社会貢献することへの関心を高めることができた。

今後の展望

現在、関市の子どもたちは、小中高と『ふうめらん』を読んで成長する。読むだけでなく、様々な体験を通して、関への郷土愛を醸成し、働くイメージをつけ、関に戻りたいと思えるようになる。今後も、私たちは、まちづくりのプロデューサーとして、様々な組織と連携し、様々な地域の課題を解決していきたい。

（特定非営利活動法人せき・まちづくりNPO  
ふうめらん職員 林加奈）